

基礎技能 音楽 における課題と学習方法について

—1999年～2002年に取り組んだ実践例より—

篠田 美里 (幼児音楽)

はじめに

児童福祉法改訂に伴い、平成14年度保育士養成カリキュラムが改訂された。基礎技能(音楽)においても大きく改訂され必修2単位となった。本学では、演習科目は半期1単位としているため、実質、1年間の履修である。この短期間により効率よく技能を身に付け、さらに、今後の自己学習の方法を示唆し、保育の現場に送り出さねばならない養成校としてのあり方を考え、より効率的な教科配列を考えた。

幼稚園や保育所の採用試験では殆どの園でピアノ課題が課せられている。また、幼稚園及び保育所実習においては、幼稚園実習において、かなりの園で前もって、ピアノ伴奏の課題が課せられている。その結果、学生の受講教科、苦手意識の筆頭に、さらに、実習への不安材料(注1)の筆頭に「ピアノ演奏」が挙げられている。毎年、実際に「幼稚園の先生や保育士になるにはピアノが弾けないとなれないんだって」という巷のうわさに縛られ、悲痛な覚悟で第1回目のピアノの授業に臨んでくる学生がいる。これは、20年前も、10年前も、今もかわらない。この思いを少しでも解決すべき授業の工夫が保育士養成校の間でも取り組まれている。本学においても、免許法改正や、カリキュラム改訂の節目ごとに、「幼児音楽」の内容の見直しをしている。本稿では、1999年～2002年に取り組んだ「幼児音楽」の実践例について述べる。

1 現状

学生の履修状況

本学入学生の入学時におけるピアノ実技履修状況(注2)は年々乏しくなっている。1999年と2002年入学生を比べると、初心者が8%増

えている。また、ソナタ以上の上級者数が2%にまで落ち込んだ。一方、電子オルガンや、ブラス楽器を演奏できる学生は年々増えている。

毎年、学期末におこなう幼児音楽についてのアンケート(注3)結果に表われるピアノの自己練習時間は、かなり少なくなっている。初心者ほど自主学習に時間と根気が要るものであるが、そこが耐えられない。自主学習に集中できないためである。(そばに誰かがついていてくればできる)さらに、社会的な問題でもある不況のため、アルバイトを平日でも長時間行っている学生が増えた等で、とても、時間のかかるピアノの練習に打ち込むゆとりが無い事にある。(実際、学生から「こんなにピアノに時間がかかるのに1単位しか出ないのですか?」と不満の声がある)

2 養成校としての目標

保育士養成校として2年間でどれくらいの力をつけて現場に送り出せるのかが就職状況に反映してくる。また、何よりも、本人自身が日々の保育の中で「ピアノが弾けないために毎日の保育が苦痛になる」ことの無いよう、ある程度の力をつけて送り出してやりたい。

①それにはどのくらいの力が必要であるか?

これについて、各校での基準は異なるが、本校では、簡単な童謡が15曲以上弾き歌いできるラインを最低ラインとしている。(一年でバイエル終了程度とするところが多い)

しかし、就職採用試験を考えると今以上に高めておく必要がある。

就職の現実を見てみると、求人数は、まず幼稚園教諭、ついで保育士、ついで児童福祉関係および託児所等である。幼稚園の採用試験では

ピアノの演奏能力がかなり重視される。現にピアノの演奏能力の高い学生から順に合格報告が聞かれる。また、試験の内容も、ピアノのメソッド系の自由曲と童謡の弾き歌い、さらに、初見と、ピアノ演奏能力の占める割合は高い。さらに、公立と私立の幼稚園を比べると、就職後の日々の保育に高い演奏能力が求められるのは私立幼稚園である。学生が就職する場合、逆にピアノ演奏能力を活かして私立の幼稚園を希望する学生もいる。保育所に関しても私立、公立ともピアノの課題があるが、内容は殆どが童謡の弾き歌いであり、2年間のピアノ学習で充分間に合う課題である。しかし、就職後の日々の保育においては未満児クラスを除いてはかなりのピアノ演奏力が求められる。一方、児童福祉施設や、託児所等では採用試験にピアノ課題を呈してこられないし、就職後もピアノを使用する機会は殆ど無いといえる。

②ピアノ演奏力に関してどの位のラインを目標にしているか?

本学では、「ピアノメソッド鷺見五郎編集」の80ページ以上、を1年前期の最低ラインとしている。現状では90%以上の学生がクリアしているので妥当なラインだと思う。そして、1年後期より童謡の弾き歌いを導入、個々のレベルに応じてメソッドと両立していく。1年後期では、童謡の弾き歌い10曲以上を目標としている。さらに、学生のレベルに応じてコード和音伴奏にも慣れるとしている。

③実際、受け入れ側の保育所等現場ではどのように考えられているか?

2000年の2月～3月に2週間、学生が実習させていただく保育所の保育士539名の方に答えていただいたアンケート(注4)によると、実習生に望む専門性としての「ピアノ演奏能力」に対する期待は意外に低く、24%であった。むしろそれよりも、子どもと向き合っていく「手遊びの技能」のほうが53%と倍以上強く望まれていた。一方、採用試験となると、すべての幼稚園とほとんどの保育所(園)がピアノの演奏課題を提示してくる。学生の実

習記録及び実習中にその園での音楽活動の記録調査(注5)からみても、毎日の活動にピアノが使われている。特に、幼稚園においては、自由遊びから、設定活動に入る際の子どもの気持ちの切り替えのために「歌の活動」は欠かせないものである。「子どもたちに、正確な音やリズム、速度を伝える」「その曲のイメージを伝え、歌う意欲を盛り上げる」ために保育者はピアノを利用している。これに関して佐藤敦子氏の調査でも、「ピアノは保育現場において必要と思われますか」の問いに対して、100%の幼稚園と90.3%の保育所が必要と答えている。その理由として「子どもたちの情操を育てる為にはある程度のピアノ演奏技術は必要である」(幼33%、保28%)、「子どもたちに正確な音を伝えたいから」(幼18%、保27%)「たとえうまくなくても教師が伴奏しながら歌を指導する必要がある」(幼31%、保27%)ことが挙げられている。(注6)

④実習に際しては、実習生のピアノ演奏を期待されないのだろうか?

日々、子どもたちが歌っている歌は、その背景にある「遊び、思い描いている情景、保育者の言葉や保育観等」が反映されたものである。突然に2週間飛び込んでくる実習学生がそれを理解することなく、いきなり自分の音楽観で演奏されても子どもたちは戸惑うばかりである。学生も自分流の速さで演奏するのが精一杯なので子どもに合わせたくてもできない状態である。現場の先生方はその点を見通され、ご理解くださった結果と捉える。そして、何よりも、現在学習中であること等を充分考慮いただけたことの現れだと思う。

⑤保育者として現場に出るにはどの位のピアノ演奏能力が要求されているのか?

本学学生の就職先のピアノ実技として出された課題リスト(表1)を見てみると、バイエル終了からソナチネのはじめ、つまり、ツェルニー30番程度または、ブルクミュラー25番程度といえる。先記述の佐藤氏のアンケートにおいても同レベルと言えた。

「表1」

採用試験課題 (ピアノ) (1999～2002年度)	
メソッド	弾き歌い(学生が課題より選んだ曲)
<ul style="list-style-type: none"> ・自由曲(自分の得意な曲を1曲) ・ソナチネ以上の曲 ・ブルグミュラー25より1曲 ・バイエル90～106のうち当日指定された1曲 	園歌・宗教曲・いぬのおまわりさん・さんぼ・たき火・松ぼっくり・おもちゃのチャチャチャ・ひなまつり・どんぐりころころ・まっかな秋・カレンダーマーチ・おつかいありさん・あわてんぼうのサンタクロース・思い出のアルバム・ドロップス・はじめのいっぽ・大きな古時計・お時計さん・あめふりくまのこ・他

⑥では、上記の曲が演奏できるだけの力を養うにはどのような点に留意し、どのような形態で授業を展開していったらよいのだろうか？

これについて本学で開講している「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ」について内容と方法を検討した。

3 「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ」の内容と目標

内容

ピアノ・声楽(読譜も含む)・基礎の楽典・器楽(打楽器類)を総合的に学ぶ

目標

子どもの生活において、音楽による表現活動は、子どもの心を解放し、気持ちが満たされることによって情緒の安定に繋がる。保育者が幼い子どもたちと「音楽する仲間になる」「子どもたちの音楽活動のリーダーになる」為には、音楽の基礎技能を身につける必要がある。初心者にとって、効率よく学習でき、かつ保育の場での利用度が高く、そして、東海地区の殆どの幼稚園・保育所での就職試験課題に実施されているのが、ピアノの演奏技能である。

また、保育の場で子どもと共に過ごす保育者には、子どもの表現意欲や創造的な活動を受容する感性と、子どもの表現活動を支えるために、表現技能を持つことが必要とされる。

以上のことを総合的に捉え「音楽Ⅰ・Ⅱ」では、まず、ピアノ技能の修得を目指す。さらに、学生自身が聞くこと、歌うこと、奏でることの技能を修得する。なによりも、学生自身が表現する楽しさを体験することが目標である。

4 方法 (カリキュラム)

① 基礎技能修得にあたっては、歌う、リズムを打つ、弾くことを総合的に指導する。

〔特に、入学後、初めてピアノに触れる学生の場合、読譜力(音の高低及び音の長さの識別)の向上が演奏力に繋がる。常に、歌うこととリズム打ちを実行することで音符の長さを視覚的、感覚的に理解する。また、学生が歌ったことのある童謡を例に挙げリズム学習を強化する〕

a リズムが読める

ピアノは演奏に先立って、まず楽譜が読めることが必要である。音符を読むことにおいては、一つ一つ数えてでも読むことができる。しかも音名は場所的には異なるものの、ドレミファソラシの7種類なのである。よって、初心者が一番苦勞するのはリズムの読み取りなのである。そしてさらに、瞬時にドレミの高低と共に、感覚で音の長さ(リズム)を想像していく事は最大の難関である。このリズムを読み取る力はすべての演奏に(歌う時もピアノ等の楽器演奏においても)必要である。それには、両手を使うピアノではなく、まず、リズムだけを叩いてみる、うたってみることでなれる。

次に、単旋律であり、叩けばすぐに正確な音が出る、奏法が困難でなく、初心者でも楽しめる鍵盤打楽器等での練習が効果的であると考えられる。そこで本学では、小太鼓及びマリンバを取り入れている。ピアノだけでも大変なのにマリンバまで練習時間が足りないと思われがちだが、相乗効果を挙げている。さらに、4～6人で簡単な童謡をアンサンブルすることによって楽しみながら、基礎的なビートを学ぶチャンスになっている。ピアノを始めた学生も、楽典から、アンサンブルから基礎的なソルフェージュ力が養われ、ピアノの読譜に慣れていくのである。(カリキュラム「表2」参照)

b コード和音伴奏の習得

次に難しいのが、このコード和音の理解である。初心者にとって、読譜もおぼつかない時期に音程や和音について論理的に説明を受けるよ

り、「耳で聴く」つまり、聴いて感覚的にとらえる力のほうが優れている。よってそこに頼っていくほうが効果的であると考え。また、童謡でうたわれる調はあまり多くないため、コードネームと和音を丸覚えすることもできる。何曲か演奏できるようになった時、コードネームの種類が理論的に理解できるようになっている。それまではひたすら覚えることが必要だと思ふ。

C 演習時における授業形態の工夫

特に初級の学生に対しては、授業時間内は90分または、45分間ピアノ練習が出来るように工夫する。

レッスン室に90分間学生を入室のまま一人一人指導をする方法では、学生の側から見れば、90分のうち10～15分しかピアノに触れられず、あとの時間は他の人のレッスンを聴講することとなる。1コマに8～9人の学生の進度を合わせられることはできないため、聴講による学習効果は薄いと考える。又、一人ずつがレッスン室を訪れる方法もなかなか連携がうまくいかず時間のロスが生まれやすい。そこで、レッスン形態としては「教師のレッスン室に学生を集めるのではなく、学生のピアノ練習の場に教師が出かけ時間内に学生の部屋を指導に回る形とする」とした。この形態は、本学には練習室がたくさん（音楽教室6・レッスン室13・練習室35）用意されており時間内に担当の学生を配分できるだけの設備を有していることにある。この方法を取り入れて2年間であるが、学生には「この時間内は自分専用のピアノがあるので安心して練習ができる」と好評であった。しかし、教師側は忙しすぎると不評であった。結果的には、学生の進度は上がっている。実際、私自身も行っているが、とても効果的であると自負している。この形態は、1つの大きなレッスン室と練習室を組み合わせしており、全員を集めたい時は、レッスン室に、個々の時は練習室にと教師側の裁量に任せてある。教師自身が今までのレッスン形態からこの形態への切り替えを行い、利点を活かした授業を展開していく必要があると思ふ。

「表2」

上記の幼児音楽Ⅰ・Ⅱの開講カリキュラムを以下に図で示す。

科目名	内 容	開講時期				
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
音楽	Ⅰ 必修	ピアノ（基礎練習曲）	○			
		ピアノ（童謡コード伴奏）		○		
		声楽（読譜・童謡）		○		
		楽典（楽器でリズム・コード）	○			
音楽	Ⅱ 選択	ピアノ（童謡弾き歌い）			○	○
		声楽（女子音楽・オペレッタ）			○	○

- I. ピアノと声楽または楽典の同時開講45分交代
- II. ピアノと声楽の同時開講45分交代

d 使用テキスト（1999～2002年度）

ピアノ

- ピアノメソッド〔鷲見五郎編〕
- バイエル後半
- その他小品集〔個々の 学生のレベルに合わせて〕
- うたってつくってあそぼう〔幼児表現研究会・編著〕
- (続) こどものうた200〔小林美実編〕

声楽（声楽担当者 選定書）

- こどものうた200・続こどものうた200〔小林美実編〕

- 新訂女子学生のための声楽教本〔小林満編〕

器楽（器楽担当者 選定書）

- 童謡、アニメ、ディズニー曲集等のアンサンブル用プリント、マリンバアルバム、小太鼓練習曲集

e その他の留意点

- ① 指導に関する共通理解〔スタッフに向けて〕

ピアノ実技指導に関しては、他の講義と違い、同一コマ（時間）内に複数の教員（非常勤講師）で担当している。その際、同じクラス間で著しい進度の違いが生じてはいけぬ。そこで、全担当者理解の上で、「ピアノ指導の手引き」を作る。また、学生には手引きの内容に基づいたレッスンカード（表3）を持たせる。

ピアノ指導に関わる全スタッフが共通理解を持ち進めることが、学生の能力向上に繋がると考える。又、半期に二回以上の打ち合わせを行う必要があると考える。

② ピアノを学ぶにあたって(学生に向けて)

○ピアノの技能修得に関して

教師は個々に応じた様々なメソッドを持ち、それを学生に提示していくが、基本的には自主学習(練習)が必要な教科である。よって、基礎技能修得においては自己練習にかなりの時間を費やさねばならないが、自分自身の音楽技能の質を高めることに最大の努力をする必要がある。しかし、その際に、保育の場ではピアノという大きな楽器がどのように使われているのか、また、子どもにどのように受け入れられているのかを考え、音楽の持つ美しさを伝えたり、子どもの歌唱表現を引き出す際の手近な道具であることを理解し練習に励んでほしい。

○童謡の弾き歌いに関して

童謡は子どもと共に心を触れ合いながら歌うもの。難しい伴奏を聞かせるものではなく、弾きながら歌うものである。子どもの歌を学習するには必ず弾き歌いをする。その際、子どもと楽しく歌える速さ(テンポ)を捉えることに留意する。又、コード伴奏に慣れ、初見能力を高め、次々と生まれる新曲に対応する力を養う。

f 問題点の検討

以上の観点から幼児音楽の指導に取り組んできたが、学生を対象のアンケート調査よりさらなる問題点を検討した。

- ・調査日 各年度の11月又は1月末
- ・対象 1・2年幼児教育専攻生受講者全員
- ・方法 調査用紙による筆記(注3)
- ・内容 ①自己の練習状況を問うもの
②ピアノ指導に関して
③その他

であった。

その結果のうち主な問題点について挙げる。まず①の「自己練習の状況に関して」は、学生

の自己練習時間が少ないことが表された。それに対しては、「なぜ、多くの時間を割いての自己練習が必要なのか」「保育者として子どもの前に立つには、どれ位のレベルまで力を付けていく必要があるのか」「実習ではあまり求められなかったピアノ演奏が、なぜ就職試験の課題になるのか」について話すと共に、各教員が、「個々の学生に対して、より具体的な課題を提示する」「童謡は歌い弾きをする(その際、子どもの顔が見られるよう暗譜する)」に留意し、繰り返し励ましていった。

次に、②「指導法に関して」アンケートの中で、教師の指導の際の言葉かけ・態度・方法について質問した。当然のことながら「自分の練習が認められた言葉」「演奏に対しての賞賛と励ましの言葉」が「やる気」に繋がった言葉として、数多く書かれていた。また、傷ついた言葉や態度にしても、数多く書かれていた。また、方法についても「合格の印について」「運指についての具体的なたとえ」「リズムの唱え方」「教師のカウントの取り方」など等、学生側からのとらえ方が書かれており、参考資料になる。これらの貴重な言葉を書き出し、非常勤講師のピアノ担当者に伝え、より一層の授業の工夫を促した。また、各講師が、学生と、レッスンの中でこのことを話題にし、コミュニケーションの強化とした。

5 まとめ

平成10年(1998年)より幼児教育専攻の基礎技能「幼児音楽」の講座を担当するようになった。それまでの初等教育音楽コースとは異なり、1コマあたり8~10人の個人レッスン形式によるピアノ指導をすることとなった。また、平成11年~13年まではカリキュラムに関しても全責任を担うこととなった。その状況下で、現代の学生の資質及び気質を考慮し、学生がピアノという技能を身に付け、保育の場で活躍するにはどんなカリキュラムと方法を用いたらよいか、と模索した。

ピアノの演奏技術の向上は何よりも練習時間の確保が大切である。そして、瞬時に「楽譜が

「表3」

平成14年度 幼児音楽Ⅱピアノレッスンカード (後期)

2年幼児教育 組 番 氏名

《後期学習課題》

★コード伴奏の習得
(つくってうたって10曲以上)

★童謡の弾き歌い
(子どもの歌200より6曲以上)

《後期試験課題》

★2頁以上の曲を一曲弾き歌い又は演奏する

9月30日	①	12月2日	⑦
10月7日	②	12月9日	⑧
10月14日	体育の日	12月16日	⑨
10月21日	③	1月13日	成人の日
10月28日	大学祭期間	1月20日	⑩
11月4日	振替休日	1月27日	⑪
11月11日	④	2月3日	⑫
11月18日	⑤	2月10日	試験
11月25日	⑥		

うたってつくってコード伴奏10曲以上				こどものうた6曲以上			
春		春					
夏		夏					
秋		秋					
冬		冬					
行事		行事					

《各自の目標》

《注意事項》

- ◆後期は講義回数が十二回と少ないので欠席しないように注意してください
- ◆担当の先生の許可があれば、各自のニーズに合わせた自由曲とコード伴奏の課題とを入れ変えても結構です
- ◆就職試験のピアノ曲課題が出た場合、担当の先生と相談してください

読め」「リズムが理解できる」「運指に繋がる」点について、理解する方法を分析し、追求してきた。そして、具体的な練習計画が立てやすく、教師側も指導しやすく指針となりうるレッスンカードの内容を検討した。その結果、一人の脱落者も無く終了することができている。

現在、保育職を希望する学生は、すべて保育現場に就職している。そして、今は、それぞれの職場で働いていると思う。保育の現場に必要な能力と考えると、ピアノ演奏能力は一つの技能にすぎない。学生には、この技能能力の有無(得意、不得意)と、保育職に対する自信を結びつけずに捉えてほしい。このことを、根底に置きつつ、今後もピアノ指導の方法について研究を重ねていきたい。

参考及び引用資料

- (注1) 実習直前及び事後指導担当学生、ゼミナール受講生を対象とした聞き取り調査による。又、東海女子短大紀要第28号168頁「教育実習に対する学生の不安要因」(杉山喜美恵氏)
- (注2) 4月に入学時に音楽の履修状況を記入する「音楽履修カード」による
- (注3) 幼児音楽履修アンケート 毎年11月又は1月末に行う
- (注4) 東海女子短大紀要第27号107頁「保育士の意識調査に基づいて」(幼児教育専攻共同研究)
- (注5) 幼・保実習園(所)で行なわれていた音楽活動の記録
- (注6) 福島学院短期大学「同氏の2003/10/19 第34回日本音楽教育学会 口頭発表」参考資料より